

# 少年少女フェスティバルに参加して

厚木市子ども会育成連絡協議会  
会長 高橋 豊



うまくできるかな

厚木市青少年指導員主管で開催された第十二回少年少女フェスティバルに、大勢の方々がお喜び申し上げます。子どもとも会と致しましては、全面的な応援をさせていただきます。我々の時代の遊びが昔のことのように思われている今日この頃であります。しかし、子ども達は昔ながらの「遊び」に興味があり、その内容から遊んでみたくなったのだと思います。そして子ども達の親も興味深く見て参加しているのでしょうか。野山での遊びや人付き合いに迷っている子ども達に手を添えてあげられるのは、私たち大人の義務であると考えます。

委員 長 鴨井 勝美



上手に作ってね

母親クラブ連絡協議会  
会長 米山 美代子

今回の少年少女フェスティバル当日は天気が悪く室内（ヤンコミ）で行われました。参加してくれた子ども達、保護者のみなさんと楽しくお話が出来ました。その中で、今の子ども達の遊びはテレビゲームやゲームセンターでの遊びなど、室内にいる時間が多く、外での遊びが少ないので、少年少女フェスティバルを通して活動をさせたいという話がありました。

母親クラブでは、麦茶コーナー・折り紙とくるみボタンの髪飾りを担当させていただきました。開会式時点では参加者の姿が見えず不安でしたが、一時間ぐらいいましたら、お父さん、お母さんと一緒に子ども達が参加

保護者が子どもに教えなければいけないのですが、ハサミをうまく使えない子がいました。今回の少年少女フェスティバルは大変いい経験になったので、刃物を使ったもの作りの楽しさを伝える活動にしていきたいと思えます。



折紙は作り方のコピーを用意し、好きな動物や花などを作ってもらいました。くるみボタンの髪飾りは特に女の子が喜んでいました。一〇〇人分の材料を用意しましたが、二時ごろには材料が終わりになりました。



野外指導者講習会を振り返って  
体育部長 勝木 陽一  
六月二十八日（日）七沢弁天の森キャンプ場で、野外指導者養成講習会が開催されました。今回は、神奈川自然公園指導員の安田さんを講師に迎え、ダッチオーブンの使い方を習いました。  
メニューは、牛すじ肉のビーフ煮込み、キャベツと豚ばら肉の蒸し焼き、バナナヨーグルトケーキです。担当する料理ごとに各班に分かれ、ダッチオーブンに挑戦しました。  
まず、炊事場で材料を揃え、キャンプファイヤー場で煮炊きを行いました。作り始めの火力が強すぎたようで、ケーキの表面は焦げてしまいました。牛すじ肉は煮込み不足で噛み切りにくく、火加減と調理時間の難しさを体験しました。  
料理を堪能した後は、キャンプや日常生活にも役立つロープワークを学びました。  
この講習会で学んだスキルを地区活動に活用してほしいと思います。

編集後記

屋内でも熱気ムンムンの少年少女フェスティバル、屋外ではより盛り上がることでしよう。今から楽しみです。(k)

# しどうはん

発行  
厚木市青少年指導員  
連絡協議会  
編集 広報部会  
厚木市中町1-1-3  
TEL 225-2580

ことも未来部の意義  
ことも未来部長 奈良 庸文

青少年指導員の皆様には日ごろから、本市の青少年行政に対し、御指導、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、本年四月に、子どもに関係する市の窓口を一本化し、より、連携を図って取り組んでいくために「ことも未来部」が、「ことも育成課」「ことも家庭課」「保育課」「青少年課」の四課体制でスタートしました。

携を十分図り、同じ目的を達成するため組織の枠を越えて検討された施策展開をしていく必要があります。また、市の組織の関係だけでなく、皆様の地域における青少年関係団体等が制度の枠を越え、コミュニケーションを図り、さらに堅固なネットワークを構築していただくこともお願いをしたいと思います。さらに、われわれ行政機関や学校との連携・協力もお願いをして、市民協働での取り組みを推進したいと思っております。

今後、こうした計画をしっかりと立て、子どもを中心とした視点に立ち、青少年指導員の皆様を始め、市民の皆様と手を取り合って、着実に諸施策を推進し、厚木市がいきいきと元気に活動する子ども達の笑顔であふれたまちになるよう取り組んでいくことが、われわれことも未来部の

使命だと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2009.4.1 スタート 「ことも未来部」



会長 堀田 哲郎

子ども未来部の創設理念を部長から頂いた文章や話の内容から要約すると、「多様化したニーズに柔軟に対応するために、市の組織と我々ボランティアの組織が横の連携を取りながら子どもの視点に立った活動を展開していく」ということになりました。

今後、ことも未来部が取り組むべき課題は多くあります。その課題の背景の一つとして、近年の生活様式の変化があります。個性的で多様な生活様式が社会的に認知されるようになるにしたいが、子どもについての行政サービスに求められるもの、また、地域社会に求められるものも事細かになり、多岐・多様になってきています。こうした要求には、従来からの施策展開ではなかなか満足を得ていない状況があります。また、変えられない部分と特別な取り組みが必要な部分とのバランスをどうとるかという問題も

あります。厚木市におきましても、現在、次世代育成支援計画の後期行動計画を策定しているところですが、さらに、国の子ども・若者育成支援推進大綱の策定を受けて、厚木市における子ども・若者計画の策定といったことも検討が必要となること

です。しかし、青少年指導員の活動としてはもう少し具体化しなければならぬでしょう。将来を見渡す場合は活動に対する

行政と民間ボランティアが縦糸、横糸となり、連携して子ども達を守っていきましょ。

フェスティバルを振り返って  
 団体育成部長 新井新三郎  
 少年少女フェスティバルは  
 今年で十二回目。毎年前夜は  
 天候が気がかりなのですが、  
 今年も予報では雨。

ボ、紙プーメン、  
 水でつぼうは男の  
 子に人気。  
 他にもゴリゴリ  
 プロペラ、缶バッ  
 子など、計十七種  
 類の遊び道具作りで、終始にぎ  
 わいました。



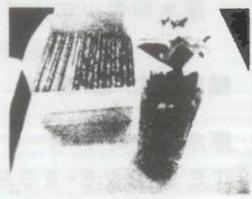
案の定、準備スタートの八  
 時三十分頃には土砂降りの雨  
 で、本来は青空の下での開催  
 を目指した準備でしたが、二  
 年続きの屋内開催となりました。

今年の来場者には未就学の  
 お子さんが多く見受けられ、  
 赤ちゃんを背負ってのお母さ  
 んからは、授乳スペースのリ  
 クエストがあったり、ベビー  
 カーを預かったりしました。

また新型インフルエンザへ  
 の対応として、各地区のコー  
 ナーの入り口には消毒液が置  
 かれたのも例年と違う光景で  
 した。

今年もアンケートには、ジュ  
 ニアリーダーや青少年指導員の  
 人たちが、丁寧に教えてくれ  
 て良かったとか、楽しかった、道  
 具が使えて良かった、また来年  
 も来たいなど準備、運営する側  
 にとっては嬉しい回答が、感謝  
 のメッセージと共に多く寄せら  
 れています。

昔ながらのおもちゃ作りを  
 通して小刀、  
 はさみ、金  
 づちなどの  
 道具の使い  
 方の楽しい  
 体験にもな  
 って、女の  
 子にはかさぐるま、折り紙、  
 一輪さしが人気で、竹トン



協力をお願いだ  
 しました。特に、  
 ウサギとふくろ  
 うの着ぐるみは  
 三十分も着れば  
 とても暑くては  
 た目で見るとは  
 重労働。そんな役目を六人のジ  
 ユニアリーダー有志が率先し  
 て、会場を華やかに盛り上げて  
 くれました。



雨による会場変更にもかかわらず、昨年より二割り増しの千二百人以上の参加者でにぎわい、楽しい一日でした。  
 来年はきっと好天に恵まれ、十三回目の少年少女フェスティバルが、青空の下、楽しくできるように願っています。



どれにしようかな

関係団体の出し物

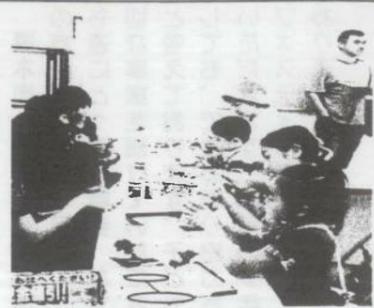
- ☆クラフト こま マスコット (ボーイ・ガールスカウト)
- ☆缶バッ子 (ジュニアリーダーズクラブ)
- ☆折り紙・くるみボタンの髪飾り (母親クラブ)



各地区の出し物

- ☆コリントゲーム (厚木北地区)
- ☆ペーパークラフト (厚木南地区)
- ☆紙フーメラン (依知北地区)
- ☆まんげきょう (依知南地区)
- ☆かさぐるま (睦合北地区)
- ☆竹ぶえ (睦合南・睦合西地区)
- ☆フーフー笛 (荻野地区)
- ☆ごりごりフロペラ (小島地区)
- ☆フラトンボ (玉川地区)
- ☆スーパー竹とんぼ (森の里地区)
- ☆しおり (南毛利地区)
- ☆平成の水てっぽう (相川地区)
- ☆ジェット機 (樟ヶ丘地区)
- ☆民芸風一輪さし (南毛利南地区)

厚木市ジュニアリーダーズクラブ  
 会長 松岡 咲  
 青少年指導員の皆さんには、  
 日頃からジュニアリーダーを支  
 えていただいていたことに感謝して  
 います。  
 また、少年少女フェスティバ  
 ルでは、事前準備などを含め、  
 たくさんの方のジュニアリーダーと  
 ふれあっていたただけたことと思  
 います。  
 さて、私が会長になる前から  
 感じていることがあります。そ  
 れは、ジュニアリーダーのゲー  
 ムを、離れて見ている青少年指  
 導員の方がたくさんいらっしや  
 るという事です。私たちは、も  
 っと多くの青少年指導員の方に  
 ジュニアリーダーのゲームに参  
 加していただきたいと思ってい  
 ます。  
 今後、より一層の交流をして  
 いただければ、ジュニアリーダ  
 ーと青少年指導員さんの絆が深  
 まると私は思っています。  
 これからもジュニアリーダ  
 ーをよろしく願っています。



かわいいのを作ろう

民芸風一輪さし  
 南毛利南地区 竹内 知子

南毛利南地区では新たな試み  
 として『民芸風一輪さし』を作  
 りました。様々な色や柄の折り  
 紙を細い筒状に丸めて空き缶の  
 周囲に貼り付け、その周りをぐ  
 るりとリボンで結び、花一輪添  
 えて出来上がりです。

未就学児のお友だちは小さな  
 手をいっぱい広げて空き缶を  
 持って作っていました。紙筒を  
 選ぶにも、「これもきれいだ  
 し、あの色も好きだし」と迷っ  
 てくれると、たくさん準備した  
 甲斐があったというものです。  
 ジュニアリーダーの皆さんがよ  
 くお世話をしてくれました。小  
 学校高学年になると、上端が波  
 打つ、あるいは竹を斜めに割っ  
 たようにと随所にオリシナリテ  
 ィを發揮していました。

この『民芸風一輪さし』は、  
 工作の醍醐味を楽しめる素晴ら  
 しいものであったと思います。

プーブー笛

荻野地区 山本 和子

荻野地区は、『プーブー笛』  
 作りをジュニアリーダーと担当  
 しました。

プーブー笛作りが一番のポイ  
 ントは、細い竹筒にリード板と  
 呼ぶ薄い板を差し込んで、一  
 ニミリほど離して固定するところ  
 にあります。この角度が微妙  
 で、開き過ぎても、くっつき過  
 ぎていても、リード板が振動せ  
 ず鳴らないのです。

リード板を固定したところで  
 「ちょっと吹いてみてね」と子  
 ども達に口にくわえてもらう時  
 が、緊張の瞬間です。小さな口  
 でリード板をおさえてフーとし  
 ても鳴りません。吹き方を指導  
 して再度トライ。まだ鳴りませ  
 ん。リード板を差し込み直し  
 て、角度を調整して三度目のト  
 ライ。

「プー〜」「わあーび〜」  
 りした！子ども達の目が急に  
 キラキラと光ります。私もにっ  
 こりです。

好きな色の風船をかぶせて完  
 成。お母さんに促されて、「ど  
 うもありがとうございまし  
 た。」子ども達のお礼の音が  
 返ってきます。

午前中はゆっくりと作業もで  
 きましたが、午後は次々と参加  
 する子がやって来て用意した風  
 船二〇〇個はきれいになくなり

ました。

終了後、心地よい疲れと子ど  
 も達の笑顔がなによりのおみや  
 げになりました。



プーブー鳴るかな

平成の水てっぽう

相川地区 片岡 俊治

相川地区は、一昨年までは竹  
 を材料とした昔ながらの水てっ  
 ぽうを作りましたが、昨年度か  
 ら塩ビ管を材料にした『平成の  
 水てっぽう』作りを始めまし  
 た。今年には更にバージョンアッ  
 プし、イラスト入りのテープを  
 子ども達が塩ビパイプに自由に  
 貼り付け、オリシナリティあふ  
 れるユニークな『マイ水てっぽ  
 う』ができるよう材料を準備し  
 ました。

当日は屋内開催でしたので、  
 マイ水てっぽうの出来映えを確  
 認できなかったことが心残りで  
 した。しかし、ジュニアリーダ

竹ぶえ

睦合西地区 浅葉 子工

雨が、コーナーを訪れた子ども  
 達や保護者に水てっぽうの作り  
 方を教えてくれた。今年も  
 と、参加者の皆さんが真剣なま  
 なざでマイ水てっぽう作りに  
 取り組んでいたことが印象的で  
 した。このような活動を通し、  
 私たち青少年指導員は子ども達  
 のイメージや発想を育くむ支援  
 もしているのだと確信できた一  
 日でした。

雨のため、少年少女フェステ  
 イバルの会場は、ヤンコミに変  
 更して行われました。睦合西地  
 区は、睦合南地区と合同で『竹  
 ぶえ』を作りました。二本の細  
 い竹を組み合わせて、カッター  
 で切ったり、穴をあけたりしま  
 す。

子ども達は、真剣な表情で取



手を切らないように

り組んでいました。出来上がって  
 音が鳴った時の喜びは、特別なも  
 のです。みんな、とても楽しそう

に作っていました。今回のおも  
 ちゃ作りはとても良い体験にな  
 ったことと思えました。参加者  
 が途切れる事もなく親子で参加  
 される方もいて、ほほえましい  
 光景でした。子ども達が、興味  
 深く参加する活動をこれからも  
 一緒に、楽しく頑張っていこう  
 と思えました。

紙プーメラン

依知北地区 三橋 智和

雨のため、今年も室内開催で  
 す。出し物は、『紙プーメラ  
 ン』。昨年は、五センチ程の大  
 きさでしたが、今年は、ウエブ  
 上からダウンロードしたり、紙  
 プーメランの本を参照したりし  
 て、大きめの十五センチサイ  
 ズを追加しました。子ども達は形  
 どりだけでなく、カラーペンに  
 よる自作プーメランがとても気  
 に入っていました。また、室内  
 では、驚くほど良く飛びます。  
 多くの子ども達とジュニアリー  
 ダーも楽しみました。

最近では、「ゲーム機の遊び」  
 がメインですが、創意工夫した  
 プーメランが空を舞うのは、達  
 成感があります。それが自信に  
 つながり、やがて「もっと上手  
 に飛ばしたい」と意欲がわき、  
 “科学を好きになる子”に育て  
 ます。来年は外で思い切り飛ば  
 してみたいですね。